

新潟県村上市の伝統的町並みと村上大祭時のしつらえの設置に関する調査

21319021 高橋 祐未  
指導教員 葉袋 奈美子 准教授

村上市 しつらえ 歴史的景観  
村上大祭 祭礼 町並み

1.はじめに

新潟県村上市は新潟県の最北端に位置しており江戸時代には村上藩の城下町として栄えた。現在でも伝統的な町屋造りが多く残っており、特に一大行事である村上大祭時には、通りに面してしつらえが行われ、伝統的家屋・町並みに溶け込み非日常的な空間を演出している。

今回は村上市内で、村上大祭時に山車を出す元町人町の 19 町内のうち、山車の巡行路に面する建物を対象とし、村上大祭時のしつらえの実態と、しつらえが実施されやすい建物・通りを明らかにすることを目的とする。



図 1 桜提灯と簾

しつらえには幾つかの種類があり、桜の模様に入った丸型の桜提灯(図 1)や、家紋の入った提灯などが見られる。横向きに黒い線が 2~3 本引かれている簾

(図 1)や簾の代わりに紅白幕を下げる家もある。

大祭時は、各家が実施するしつらえが連なることによって、町全体がハレの空間となる。また、各家が飾るしつらえではあるが、各町内でしつらえの種類が異なることで、通りごとに雰囲気の違いが表れている。

調査としては、通常時調査として、対象である旧町人町の道路沿いの建物の立地、開口部等の実態を現地踏査・Google Earth により調べた上で、大祭当日に対象となる建物を、目視によりしつらえの実施や、大祭への関わり方を確認する。今回の研究では 2016 年 7 月 6 日 7 日に、学部生 6 名で調査を行った。

2.建物別の分析

調査対象とした通り沿いの建物は全部で 1239 軒であり、そのうちの 31.7%の建物でしつらえが実施されていた。

建物の用途で分類すると、住宅は 826 軒、店舗は 257 軒、集合住宅やガレージなどその他の建物が 156 軒であった。その中でしつらえの実施割合をみると、店舗(33.9%)のほうが住宅(33.4%)よりもしつらえを実施している。(表 1)

1 階の開口部を、通りに面する開口部について「出入口有・掃き出し窓有・両方有・両方無」の 4 タイプに分類

表 1 用途別しつらえの実施状況

用途	軒数	割合
住宅(n=826)	276	33.4%
店舗(n=257)	87	<b>33.9%</b>
その他(n=156)	30	19.2%
総計(n=1239)	393	31.7%

したところ、掃き出し窓有の建物が最も多く、しつらえを実施している割合も高かった。

2 階の開口部についても「窓有・ベランダ有・両方有・両方無」の 4 タイプに分類し、窓有の建物が多く、しつらえを実施している割合も高かった。

格子窓のある建物としつらえの関係について考察を行った。格子窓のある建物は 138 件あり、その中で 76 軒の建物でしつらえが実施されていた。格子のある建物の中では 55.1%がしつらえを実施していた。この結果から、格子窓のある建物でしつらえが実施されやすいといえる。

表 2 格子窓としつらえ実施の関係

	しつらえ無	しつらえ有	総計	実施割合
格子有	62	<b>76</b>	138	<b>55.1%</b>
格子無	784	317	1101	28.8%
総計	846	393	1239	

道路からの距離について、軒先程度・駐車場程度・大の 3 種類に分類したところ、軒先程度の建物が 729 軒で、最も多かったが、駐車場程度の建物で 33.3%がしつらえを実施していた。このことから、道路からの距離が駐車場程度の建物でしつらえが実施されやすいといえる。

3-1.通り別の分析

今回の調査では、調査対象地を、道路の 1 区画を目安に 20 軒~70 軒程度に分割し、1 本ごとに調査を行った。調査対象地域を 35 本に分割し、しつらえの実施割合の高い通り・低い通りの比較・分析を行った。

しつらえの実施割合が 50%以上の通りは 5 本であった。全体平均である 31.7%以上の建物でしつらえを実施している通りは、10 本であった。またしつらえは実施されていなかった通りは、2 本であった。(表 1) その中でしつらえの割合が高い通りは、1 階の通りに面する開口部が出入口の建物、また、2 階の開口部が窓の建物が多いという特徴があった。道路からの距離に注目すると、しつらえの実施割合が高い通りでは、軒先程度の建物が多い。この

ことから、建物がセットバックされていない建物の多い通りで、しつらえの実施割合が高いといえる。この結果は、建物のみで分析した場合と異なる結果となった。

また、通りによってしつらえの種類にも違いがみられた。提灯に関して、ほとんどの通りで桜提灯を出していたが、小町・大町・上町の中央商店街では、その他の提灯が多く実施されていた。また、簾と紅白幕を比較すると、住宅街28本中13本で簾が多かった。その中で、庄内町は住宅のほうが多い(68軒中住宅51軒)が、紅白幕を実施している建物が多かった。また、中央商店街(小町から大町の通り(22・24・31))はその他提灯と紅白幕のしつらえを実施していることが多いが、大町では簾を実施している建物が多い。町内によってしつらえの実施に特徴があるといえる。

表2 通り別のしつらえの実施<sup>注1</sup>

	通番号	通り名	実施 / 全数	割合
通り 50%以上の建物で しつらえを実施していた	6	塩町	33/49	67.3%
	11	久保多町	40/60	66.7%
	22	小町1	14/28	50.0%
	25	庄内町1	46/68	67.6%
	27	上町	22/33	66.7%
全体平均(31.7%)以上の建物で しつらえを実施していた通り	2	羽黒町	19/45	42.2%
	5	塩町3	16/40	40.0%
	8	塩町 加賀町	13/41	31.7%
	10	加賀町 久保多町	14/39	35.9%
	15	肴町1	30/69	43.5%
	18	寺町1	8/20	40.0%
	20	小国町1	21/50	42.0%
	24	小町大町	10/28	35.7%
	26	庄内町2	17/42	40.5%
	35	片町2	14/35	40.0%
実施していな かった通り	12	久保多町2	0/29	0.0%
	23	小町2	0/11	0.0%

3-2.幅員による分類

建物が面する道路の幅員によって分類した。50%以上でしつらえを実施している通り・平均以上でしつらえを実施している通り・しつらえを実施していない通りを分

類すると、以下の表4のようなになる。通りの分類として最も多かったのは6~8mの通りで、16本であった。16本中7本が平均以上の割合でしつらえを実施していることが分かった。道路の拡幅工事について見ると、通り27・32・33の通りで行われていた。通り32・33は拡幅されていてしつらえの実施も平均以下だが、通り27は拡幅が行われているが、しつらえも66.7%で実施されている。通り27は格子窓の建物も42.2%で平均以上であり、建て替えの際にも村上の町屋を意識しているため、拡幅後もしつらえが多いのではないかと。

表3 道路幅員による分類<sup>注1</sup>

幅員	幅員 4~5m	幅員 6~8m	幅員 10m以上
番号	8・10	6・11・20・22・24・25・26	2・27・35

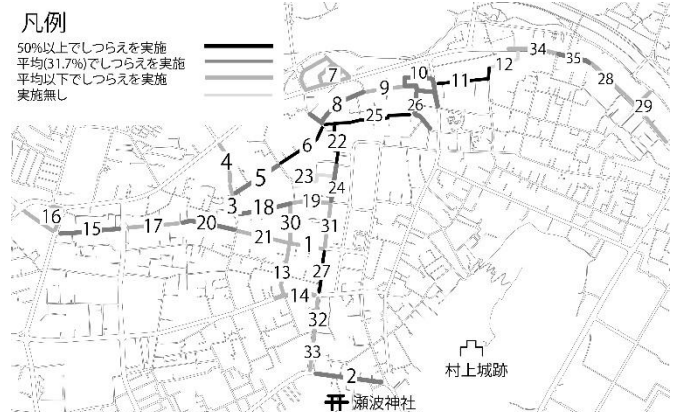


図2 しつらえの実施状況<sup>注1</sup>

4.まとめ

本研究において、以下の点が明らかになった。

建物単体としてみると、格子窓のある建物がしつらえを実施している割合が高い。これは、村上の町屋造りの特徴として格子窓があるため、その村上の伝統的な要素を取り入れている建物がしつらえを実施しているのではないかと考えられる。通りとしてみると、セットバックのあまりされていない通り、開口部についていうと1階に掃き出し窓、2階に窓のある建物の割合が多い通りで、実施していることが分かった。

通りに関して道路幅員についてみると、6~8m幅員の通りでしつらえの実施割合が高い。

以上のことから、「格子窓の要素のある建物」「セットバックされていない建物の多い通り」「面する道路の幅員が6~8mの通り」でしつらえの実施が多いといえる。

【注釈】

<sup>注1</sup>通り番号は図2地図中の番号に対応する。

【参考】・村上市ホームページ

・山奇彩：「祭礼時における町家及び町並みのしつらえの実態—新潟県村上市の村上大祭・瀬波大祭・岩船大祭を対象として—」日本建築学会大会学術講演梗概集 2003年9月